

令和2年度 ユネスコスクール NISHITA 校内研通信 No.1

6年生研究授業「世界に向けて羽ばたこう」6-1

◆本時について

評価規準【情報を整理・分析する力】

・平和な社会の実現に向けて、ゴールのイメージをもち、取り組むべきことを考え、学習計画を立てることができる。

何を教えるのか：多様な他者（仲間や協力してくれる方）との対話の大切さ。

なぜ教えるか：これまで考えてきた学習計画を協力してくれる方の活用の視点で見直すことで、より良く課題が解決できるのではないかという見通しをもつことができるから。

どのように教えるか：

これまで西田小学校が培ってきた「協力してくれる方 活用リスト」を児童に提示し、自己の課題達成に向けてより有効な方法を見いだす。

どのような力を育てたいのか：

①未来を見通して計画を立てる力：自己の課題意識から今考えられるゴールをイメージし、その達成のための方法を考える力。

②つながりを尊重する態度：自分にはない考えを他者から得ようとする謙虚な姿勢。

◆協議会での意見

授業を振り返る視点1

「ゴールイメージをもって自分で計画をたてる」という取り組みは汎用性があるか。

→有効であった／高学年では有効であると考えが、低中学年では難しいのではないかと。「見通しをもって学習をする」には積み重ねが必要だ。／「こうすれば課題が解決できる」という学びのサイクルを積み重ねていく必要がある。ゴールイメージがばらばらになりすぎると子供も教員も大変。何本のルールを敷くのか、途中で分岐させるのか等

授業を振り返る視点2

「他者との対話が、自己の目標を達成することに重要だと気付く授業づくり」という取り組みに汎用性があるか。

→これまでも取り組んでいる。／目的が似ている者同士の話し合いは課題意識を共有しており、有効であった。／発達の段階に応じて「対話」の場を設定することが大切だ。等

その他の意見

→課題が表面的なものにならないよう、個別の声掛けや価値づけが必要。／困り感があれば対話の必要性が生まれてくる。／「平和」という抽象度の高い課題に対して、より実感を伴う学習を展開する工夫が必要だ。

◆参観していただいた先生より

- ・自分で決めることは子供たちの学習意欲の向上につながる。
- ・外部人材は学校では学べない知識が得られる。非日常的で記憶に残る。
- ・学習計画を立てることは教科・学年で汎用性がある。

◆本研究授業を振り返って一研究主任より一

本校のESD推進の中心教科は生活科・総合的な学習の時間です。今年度、コロナ禍による休校による単元計画の変更、協力者の方との連携、校外学習の行先の検討など、どの学年もご苦労をされていることと思います。制約下で、よりよい授業を提供することが私たち教員に求められています。特にこのような状況だからこそ、持続可能な社会づくりに必要な資質能力や、指導方法について、考えていく必要があると思います。本授業実践をたたき台として、子供たちにESDの視点で、「何を学ばせるか」「なぜ学ばせるか」「どのような方法で学ばせるか」「どのような力をつけさせたいか」を研究授業だけでなく、普段から意識して授業づくりに取り組んでいただければと考えます。